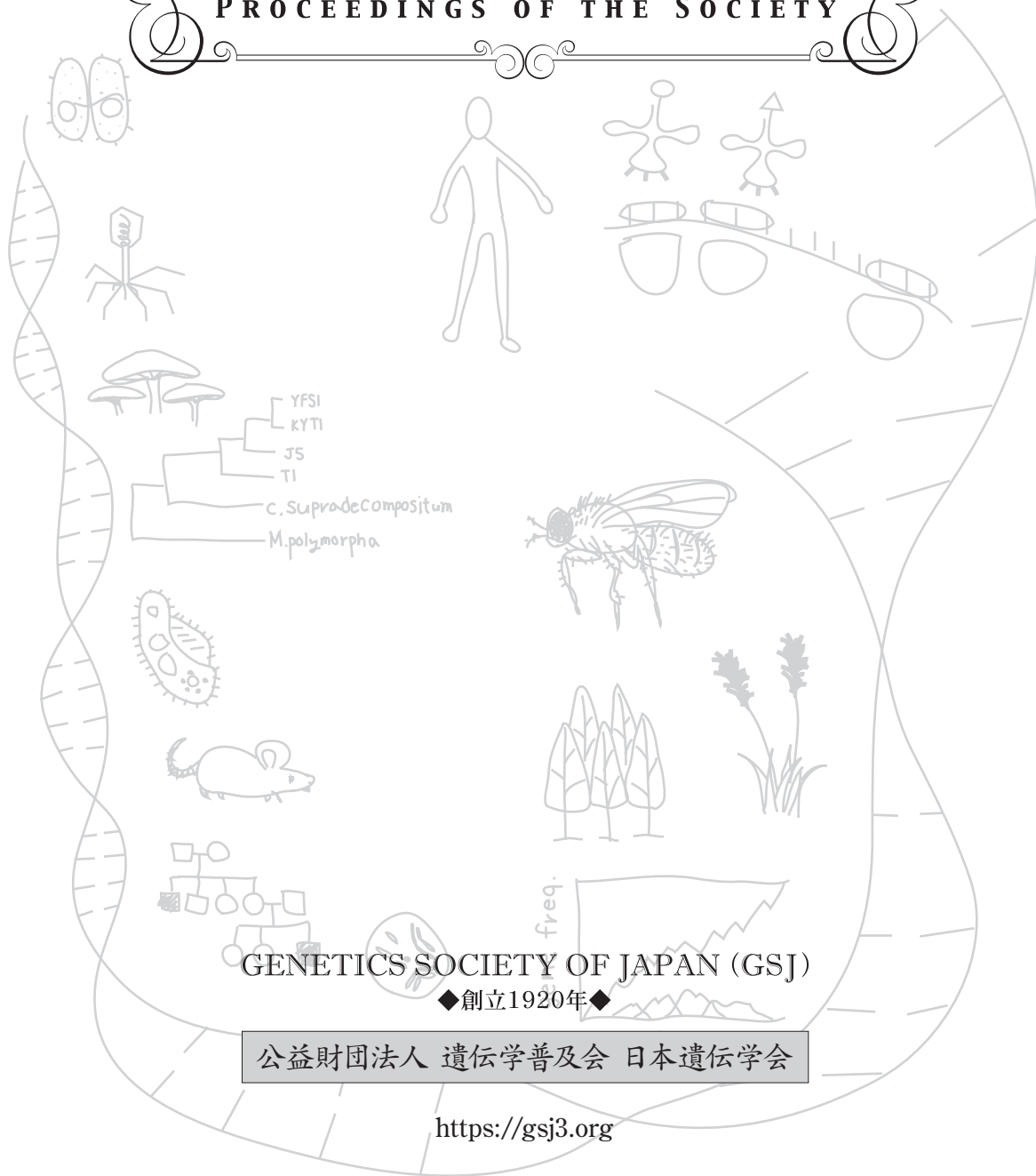


SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2021)96(1) February 2021

GSJ

コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY




GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会

<https://gsj3.org>

目 次 頁

	<p>2021年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い 3</p> <p>大会ニュース（その1）..... 4</p> <p>惜別 追悼 小川智子先生 篠原美紀 5</p> <p>日本遺伝学会第92回大会 収支報告 9</p> <p>日本遺伝学会第92回大会（熊本大会）の公開市民講座 10</p> <p>日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い 11</p> <p>2021年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書 12</p> <p>2021年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書 14</p> <p>本 会 記 事</p> <p>会員異動 16</p>
--	---

2021年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2021年度日本遺伝学会年会費を、下記郵便振替口座までご納入下さいますよう、よろしくお願いたします。なお、年会費のご納入をクレジットカードにてお支払いいただく場合、ご利用方法の詳細を学会 HP の各種手続きをご参照くださいますようお願いいたします。

普通会員	10,000円
学生会員 ^(注1*)	3,000円（学生会員は初年度会費は免除）
シニア普通会員	6,000円
シニア永年会員	初回のみ 30,000円、以降の年会費は免除
教育会員	2,000円

（注1*）学部学生と大学院生が対象です。郵便振込の場合、振替用紙の通信欄に指導教員のお名前をご記入ください。入会申請後に、在学証明書をFAX、あるいは電子メールの添付ファイルにて事務局までお送りください。上記の手続きが完了した場合のみ、初年度会費が免除されます。

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会

口座番号 00890-1-217316

●他の金融機関（ATM）から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

・店名 ○八九（ゼロハチキュウ）

・預金種目 当座預金

・口座番号 0217316

*お手数料に440円かかります。

日本遺伝学会第93回大会ご案内

開催方法について：

日本遺伝学会第93回大会は、新型コロナウイルス感染の状況や、政府や自治体、大学等が発表する方針を踏まえ、開催方法について検討中であります（4月20日時点）。今後、開催方法の他、大会参加登録の詳細は大会ホームページ上でお知らせ致します。

大会ホームページ：<https://www.gsj2020tk.com>

会 期：令和3年9月8日（水）～10日（金）

プログラム概要：

- 国際・国内シンポジウム（9/8, 9）
- ワークショップ（9/8～10）
- 一般口頭発表（9/8～10）
- ポスター発表
- 男女共同参画公開ワークショップ（9/9）
- 総会・受賞講演（9/10）
- 市民公開講座 9月11日（土）
「がんの遺伝的多様性の理解からがんの治療法を考える」

申し込み：

参加と講演の申し込みは例年通り大会ホームページから受け付けます。

- 登録開始日は5月中旬以降、大会ホームページにてお知らせします。
- 講演申し込み・要旨受付締め切り 6月21日（月）
- 事前参加申し込み締め切り 7月26日（月）

皆様には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本遺伝学会第93回大会準備委員会

大会委員長 菱田 卓（学習院大学 理学部生命科学科）

連絡先：日本遺伝学会第93回大会事務局

学習院大学 理学部生命科学科 菱田研究室

〒171-8588 豊島区目白 1-5-1

TEL: 03-5904-9422 FAX: 03-5992-1029

E-mail: gsj2021tk@gmail.com

【大会 HP】<https://www.gsj2020tk.com>

惜 別

追悼 小川智子先生

近畿大学 篠原美紀

小川智子先生が、2020年12月24日（金）病
気療養中のところ、盛岡市のご自宅で急性心不
全のため、お亡くなりになり
ました。享年83歳でした。コ
ロナ禍の中にあり感染拡大防
止の観点から葬儀は近親者の
みで行うので、門下生の参列
は一切不要との小川英行先生
からの伝言により私たちは誰
一人、智子先生に最後のお別
れをすることができませんでした。
そのときは気持ちの整理も
つかず納得するまでに時間も
かかりましたが、看護専門学
校の校長という英行先生のお
立場からすれば、もっともな
冷静なご判断でありました。
そして本当に、このような事
態においても英行先生の冷静
に俯瞰的に物事を見通す力は
健在だと感じ入っています。
それでも今に至っても、この
ようなかたちでの急なお別れ
になるとは夢にも思わず、た
だただ実感のないままに受け
止められずにいます。

私は、大阪大学理学部の小川研究室で研究
教育を受けましたが、卒業研究及び大学院修
士課程の時に指導を受けていたのは伊藤建夫
先生で小川智子先生の直接の指導学生では
ありませんでした。大学院の博士課程在籍時
に Rad52 タンパク質 - DNA 複合体の構造を
電子顕微鏡観察で明らかにする実験を国立遺
伝学研究所（遺伝研）に行き指導していただき
、その後、学術振興会特別研究員として遺
伝研の小川智子先生の研究室にアメリカ渡
航までの数ヶ月ではありましたが在籍さ
せていただきました。夫の大阪大学の篠原
彰教授が学部生のときからずっと小川智
子先生に師事していましたので、どこか



「お姑さんと嫁」に似た関係だったかもしれ
ません。大阪大学での期間は、直接研究指
導を受けていないことで、利害関係
がない分、むしろいろいろな
話題について率直にお話を
させていただいたような気が
します。そして何よりも、ま
だまだ数が少ない女性研究者
としてずっと追いかけるべき
背中を見せて「走り続けな
さい！」と檣を飛ばされていた
ような気がします。ずっと智
子先生と呼ばせていただいで
いたので、以降はそのように
書かせていただきます。

智子先生は博士課程で博士
号を取得されたのではなく、
1960年に共立薬科大学を卒業されて、そのま
ま国立予防衛生研究所（予研）に勤められ
ました（1968年に東京大学で博士号を取
得）。そこで富澤純一先生と出会い、そこ
から研究者の道を歩まれることになり
ます。学位よりも先に職業として研究
をされていたせいか、智子先生はいつ
でも現場主義でした。予研時代の業績
の代表的なものとしては、1968年に λ フェ
ージを用いて DNA 複製中間体を重元素
によるパルスラベルと CsCl 密度勾配遠
心を用いて濃縮し、世界で初めて電子
顕微鏡を用いて複製フォークを可視化
した業績が挙げられます（Ogawa et al.,
1968）。飲み会の度に、初めて複製中
間体を見つけた時のことを「最初はさ
、（複製中間体が）どんな形か分
からないわけさ、それでも見つけた
時にこれだって思ったのよ。そう
したらあとは簡単に次々見つかる
わけ！」と目をキラキラさせて何
度もお話しされていた顔が浮かび
ます。その後、富澤先生が大阪大学理
学部に移られ

たのにもなって、智子先生は大阪大学の助手になられました。また、1970年から一旦、マサチューセッツ工科大学に留学され、当時は学生だったハーバード大学の Nancy Kleckner 博士らに教える立場として親交を深められ、酵母のシステムを持ち帰り、再び大阪大学で教鞭をとられました。その時代の大きな業績は、まずは大腸菌 RecA の遺伝子配列を決定し、RecA タンパク質を精製して生化学的に ATP 加水分解活性を世界で初めて検出したことでしょう (Ogawa et al., 1979)。私が大阪大学理学部3年生の時の小川研究室担当の学生実験は智子先生が担当でした。内容は、大腸菌プラスミド上で大腸菌と緑膿菌 RecA 遺伝子の間でキメラを作成して紫外線感受性でクラス分けをして、最終的にグループで一株か二株ずつキメラ RecA 遺伝子のジャンクション部位をシーケンス解析で決め、最終日にはそのジャンクションと紫外線感受性の違いから RecA のドメイン機能をみんなでデータを持ち寄って小川研の大学院生も加わって考察するという超実践的な内容で、誰も答えを知らないガチの実験で、とてもわくわくしたのを覚えています。初めて大腸菌を扱うような学生を集めて、たった1ヶ月でそのような実験実習をするアイデアは素晴らしく、現に私がこのように30年以上経っても実習でやったことを全て覚えているのですから教育者としてもとても優れていたのだということが分かります。

1991年、私が4年生で小川研究室に配属になった夏休みに、出芽酵母 Rad51 が真核生物の RecA らしいことが明らかとなり研究室にはわかにはざわつき、そのままあつという間に分裂酵母、マウス、ヒトの Rad51 遺伝子のクローニングに成功していきます (Shinohara et al., 1993; Shinohara et al., 1992)。智子先生はというと、一人、篠原彰が精製した酵母 Rad51 タンパク質を携えてミネソタに行ってしまう。Edward Egelman 博士の研究室で Rad51-DNA 複合体の電子顕微鏡写真を立体再構築する実験を行っていたのでした。日本にいる私たちには「RecA と Rad51 とどっちがどっちか区別がつかないくらいにそっくりらしい……」という噂が。今でこそ、クライオ電子顕微鏡を用いての

タンパク質複合体の3次元構造解析は一般的になってきていますが、当時は普通の電子顕微鏡で異なる分子の多くの画像を平均化して3D再構築できるのは Egelman 博士の研究室だけだったので、面白いと思ったら即行動の智子先生だからできた仕事です。そのときに得られた研究成果は Science の表紙 (下図参照) を飾り、多くの教科書に掲載されていますのでみなさん、一度はご覧になった事があるかと思います。私と智子先生、夫と英行先生はそれぞれちょうど30歳年が離れています。智子先生がこの Science の仕事をされたのはちょうど今の私の年齢だったことになります。そう思うと、いかに智子先生が常に新しいことを学ぶ姿勢を貫かれたかということが分かります。

Rad51 から少し遅れて小川英行先生のグループで出芽酵母の減数分裂期組換えに必要な遺伝子として MRE (Meiotic Recombination) シリーズの遺伝子が単離されその中には新規遺伝子として MRE11 が含まれていました。これらの業績により2度の特別推進研究に採択されました。門下生はこの頃のことを小川研バブル期と呼んでいます。その中であっても、智子先生はいかに苦勞して実験を進めてきたか、知恵と工夫で研究費がない時にいかに乗り切ってきたか、その時の先輩方の努力があるから今があるのだと、ことあるごとに学生に教えてくださいました。



Science 誌の表紙を飾った Rad51 と RecA のヌクレオフィラメントの 3D 再構築写真 (Ogawa et al., 1993)。

1995年に遺伝研に移られた智子先生を訪ねてRad52タンパク質-DNA複合体の電子顕微鏡観察を一から、グリッドに貼るカーボン膜の作り方も含めて教えていただく機会がありました。(主人は智子先生からは*PstI*でプラスミドDNAを切ることしか直接習っていないそうで、このことは嫉妬されています。)真っ暗な部屋で夢中で電子顕微鏡をのぞいていてもざらっとした表面と、DNAが唐草模様のように見えるだけで一体何を写真に撮れば良いのか分からないまま撮影して、やっと何枚かピントが合った写真ができあがったのは真夜中でした。教授室はまだ明かりがついていました。ずっと待っていてくださったんだと、自分では何が映っているのか皆目分からない写真を何枚か智子先生に見せると、「これはリングね」と即答。「DNAに沿ってリングがきれいに並んでいるじゃない？」そう言われた智子先生の指先を見るとだまし絵でも見ているように無数のリングが見えてきました。あのときの不思議な感動は本当に忘れたい経験です。そうしたら先ほどまで何もわからなかったどの写真にも無数の美しいRad52のリングが見えるのです。真夜中という時間帯のせいもあってか智子先生は魔法使いじゃないかと本気で思いました。そのときにもうれしそうにご自身のエピソードのお話しをしてくださいました。実はその頃の私はその年に起きた阪神淡路大災害などを発端に気持ちが不安定になり本気で大学院を辞めようかと迷っていた時期でありました。きっと今にもドロップアウトしそうな私を自分の元と呼んでくださったのだと思うのですが、説教するでも説得するでもなくただひたすら研究の面白さを体感させることで救ってくださいました。(ただ単に電顕要員だっただけかもしれませんが……)そのあたりが智子先生ミラクルでもあります。

遺伝研に移られてからは遺伝研の副所長や日本分子生物学会の会長などを歴任されて、組織の運営を介して人を育てていくことにも力を注がれていました。大阪大学の講師からいきなり国立遺伝学研究所の教授になられたのには、こんな人事もありなんだと勇気をもらいました。智子先生には長電話や新幹線などで2人きりで話す機会によく「女の道」を教えてくださいました。

具体的な内容については智子先生と私のヒミツなのでここでは書きませんが……。時には厳しいことも言われました。一つだけあげると、「女は男の3倍働かないと同じようには評価されない。その覚悟はあるか？」(本当はもっと強烈な言葉が続くのですが活字にすると正しく真意が伝わらない気がするので割愛します)と。実はその問いに自分がどう答えたのか全く記憶がない。でも鮮烈にその言葉がのこっていて、日本遺伝学会はじめ男女共同参画の仕事をさせて頂くときに「男女とも一倍の働きで同じ評価になるようにする。」がモチベーションになっています。このように身近にロールモデルがあるという環境は、私はその環境しか知らずそれが当たり前だと思っていました。この当たり前が、日本においては本当に稀な恵まれた環境で何よりもその組織の中のマイノリティーがキャリアを形成していく上で重要な環境であった事を知ったのはずっと後になってからのことです。

生前の智子先生に最後にお会いしたのは2018年1月に日本分子生物学会の創立40周年記念の小川英行先生との対談で盛岡を訪れ、対談前にご自宅に伺った時です。少し具合が悪いということでベッドに横になられたままでした。「お化粧もせずに、こんななりで……」とおっしゃるので「女同士だからいいじゃないですか。」と、先生の愛犬の話、昔の話など他愛ない話をずっと智子先生の手を握りながら話していました。そのときの智子先生の手が本当にマシュマロのように白く柔らかくて、もうずっと長いあいだ実験をされていないのだなと少し寂しく思いました。その一方で、女同士だからこそ、ごまかしがきかない、本質を見抜かれている感じがして、これまで智子先生との間にあった一本の緊張感がずっと消えて、本当に穏やかな温かな時間を二人で過ごすことができました。そして、2014年に英行先生の瑞宝中綬章叙勲と傘寿・智子先生の喜寿のお祝いで門下生が集まって箕面で行った食事会がとても楽しかったと、ふとおっしゃって、「大阪に行くから、もう一度みんなで会う企画を考えてよ。」とお願いされたのに、結局、忙しさにかまけて実現できないままになってしまいました。たくさんの教え



箕面での食事会で、左から、英行先生、筆者、智子先生

を頂いたのにこんな簡単なこともお返しできずにお別れだなんて、本当に情けない気持ちでいっぱいです。そして……智子先生、本当はね、智子先生に勲章をとって頂きたかった、先生の好きなキラッキラのね。私はそのお祝いをしたかったな、ずっと憧れの智子先生だから。

思い出話のような文章になってしまいましたが、先生から頂いたたくさんの言葉や教えを受けた私たちが、それを次の若い人達に伝えることでずっと先生はたくさんの人の中で生きていくと信じています。この追悼文を書く機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

小川智子先生の心からのご冥福をお祈りいたします。

- Ogawa, T., Tomizawa, J. I., and Fuke, M. (1968). Replication of bacteriophage DNA, II. Structure of replicating DNA of phage lambda. *Proc Natl Acad Sci U S A* 60, 861-865.
- Ogawa, T., Wabiko, H., Tsurimoto, T., Horii, T., Masukata, H., and Ogawa, H. (1979). Characteristics of purified recA protein and the regulation of its synthesis in vivo. *Cold Spring Harb Symp Quant Biol* 43 Pt 2, 909-915.
- Ogawa, T., Yu, X., Shinohara, A., and Egelman, E.H. (1993). Similarity of the yeast RAD51 filament to the bacterial RecA filament. *Science* 259, 1896-1899.
- Shinohara, A., Ogawa, H., Matsuda, Y., Ushio, N., Ikeo, K., and Ogawa, T. (1993). Cloning of human, mouse and fission yeast recombination genes homologous to RAD51 and recA. *Nat Genet* 4, 239-243.
- Shinohara, A., Ogawa, H., and Ogawa, T. (1992). Rad51 protein involved in repair and recombination in *S. cerevisiae* is a RecA-like protein. *Cell* 69, 457-470.

日本遺伝学会第92回大会 収支報告

会 期：2020年9月16日（水）～18日（金）

会 場：くまもと県民交流館パレア ⇒現地開催中止

*公開市民講座のみ、2021年3月6日（土）に、オンサイト・プラス・オンラインのハイブリッド開催を行なった。

収入の部（単位：円）

No.	項 目	予 算	決算額	内 訳				
1	会 費	2,200,000	182,000	事前参加登録費	一般会員	8,000	82名	656,000
					一般非会員	10,000	8名	80,000
				事前参加登録費返金 (予稿集費2,000円 を差し引いた額)	一般会員	-6,000	82名	-492,000
					一般非会員	-8,000	8名	-64,000
				ナイトゼミナール 参加登録費	一般会員	3,500	25名	87,500
					一般非会員	5,500	2名	11,000
					学生非会員	2,500	1名	2,500
				ナイトゼミナール 参加費返金	一般会員	-3,500	25名	-87,500
					一般非会員	-5,500	2名	-11,000
					学生非会員	-2,500	1名	-2,500
当日参加希望者	抄録集のみ	2,000	1名	2,000				
2	共催ランチョンセミナー	440,000	0					
3	広告料	308,000	429,000	表 2	44,000	1社	44,000	
				表 3	44,000	1社	44,000	
				表 4	66,000	1社	66,000	
				巻末1頁	33,000	5社	165,000	
				巻末半頁	22,000	5社	110,000	
4	展示料	1,320,000	0					
5	協賛金	200,000	180,108	4社計6口（一口20,000円）、1社展示料（60,000円）の協賛金への変更				
6	大会準備金（日本遺伝学会）	1,000,000	1,000,000					
7	熊本県などからの大会助成金	1,000,000	0					
8	その他		180,007	ナイトゼミナール補助金180,000円、利息7円				
	計	6,468,000	1,971,115					

支出（単位：円）

No.	項 目	予 算	決算額	内 訳			
1	会場費	720,000	0	※会場実施中止のため			
2	会場設営費	1,980,000	0	※会場実施中止のため			
3	会期中運営管理費	330,000	0	※会場実施中止のため			
4	会期中人件費	770,000	0	※会場実施中止のため			
5	印刷費	1,000,000	1,056,194	予稿集、HP、ポスター、演題・参加登録システム費			
6	交通費	360,000	130,630	運営事務局打合せ・会場下見交通費			
7	通信費	400,000	5,302				
8	運営事務局委託費	550,000	418,000	大会準備、現地開催中止に伴う処理など			
9	雑 費	200,000	4,158	大会長印など			
10	予備費	158,000	76,290	振込手数料、オンライン決済手数料			
11	その他		280,541	日本遺伝学会準備金返還分、ナイトゼミナール補助金返還分			
	計	6,468,000	1,971,115				

日本遺伝学会第92回大会（熊本大会）の公開市民講座 「ヒトを超える!? スーパー生物のまうごつ楽しかぁ遺伝学」を終えて

大会委員長 荒木 喜美
大会副委員長 三浦 恭子
事務局 長 荒木 正健

2021年、3月6日（土）に30名の事前登録参加者を迎え、熊本大学遺伝子実験施設にて公開市民講座を開催いたしました。日本遺伝学会第92回大会は新型コロナ第2波のため現地開催中止、プログラム・予稿集の出版で大会の開催に替えることになりましたが、この公開市民講座は科研費に採択されていたこともあり、3月に延期していました。結果的に、第3波の中ではありましたが、参加人数を制限し、感染対策を万全なものとした上で、オンサイト・オンライン両方併用する形で開催することができました。ご尽力いただいた皆様に、感謝申し上げます。

冒頭に小林会長からの挨拶をいただいた後、前半では、熊本大学三浦恭子先生による、最長寿命齧歯類ハダカデバネズミについて、北海道大学山口良文先生による、冬眠する哺乳類ハムスターの秘密について、東京大学國枝武和先生による、極限的環境ストレスに耐性をもつクマムシについて、そして、熊本大学荒木喜美が遺伝子改変を自在に行えるマウスについて、講演を行いました。質疑も活発で、大学の講義室という場所が、大きなホールなどに比べ、より親近感が出たのかもしれないと感じました。後半は、この講座の目玉である体験講座を行いました。オンサイト参加者を5人のグループに分け、1. ハダ



小林会長の挨拶の様子

カデバネズミの観察、2. 様々な毛色のマウスや光るマウスの観察、3. マウスのES細胞及びそこから分化した心筋細胞の拍動、4. 凍結保存されているマウスの精子や胚の解凍、5. 最新研究機器の見学、6. DNAのエタノール沈殿の体験、のコーナーを順に回っていただきました。講演会だけよりも、実際に見ることができるのはとても印象深かったようで、大変喜んでいただきました。オンライン参加者には、4つの講演に加え、体験講座として、事前に収録していた、ハダカデバネズミが活発に動き回る様子、展示に用いたマウスの説明、研究機器の解説、エタノール沈殿の様子をZoomで配信いたしました。山口先生、國枝先生は、オンラインでご講演いただきましたが、このオンライン体験講座にも最後までお付き合いいただき、本当にありがとうございました。

Zoomで録画を行っていたので、参加登録をくださった方、また、遺伝学会の大会に寄付や広告の形でご協力くださった企業関係者の皆様には、4月までストリーミング配信を行っています。今回、オンサイト・オンライン両方併用形式で行なったことにより、公開市民講座の新しい可能性が出てきたと感じています。遺伝学会の会員にも配信できないか、現在検討中です。

今後も、新型コロナの状況はまだまだ予断を許しませんが、新しい可能性を模索しつつ、「キラリと光る」ような公開市民講座への試みを続けていければと願っております。

ご協力くださった熊本大学の皆様、山口先生、國枝先生、本当にありがとうございました。



会場の様子

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い

下記の規程に添って2021年度木原賞および奨励賞候補者推薦をお願いします。

【推薦書作成要領】

本誌に掲載された様式に従って作成してください。なお、同様式は遺伝学会ホームページからダウンロードしていただけます。いずれも用紙はA4判を使用して下さい。

(木原賞) 推薦書、業績リスト、候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文5編各3部と郵送して下さい。また、候補者推薦書 (Word)、業績リスト、論文のPDFをメールの添付にて事務局にお送りください。

(奨励賞) 1. 推薦書、業績リスト、候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文2編各3部と郵送して下さい。

2. 自薦の場合も同様式に従って作成して下さい。

(2010年から年齢制限はなくなりました) また、候補者推薦書 (Word)、業績リスト、論文のPDFをメールの添付にて事務局にお送りください。

【提出期限】

2021年5月30日 (日) 必着

提出先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内

日本遺伝学会 Tel & Fax 055-981-6736

日本遺伝学会会長 岩崎 博史

電子ファイル送付先：Email: japgenet@nig.ac.jp

*なお、木原賞および奨励賞の受賞者には当学会誌 Genes & Genetic Systems に英文総説の執筆と、その年に開催されます大会で受賞記念講演をお願いしております。

公益財団法人遺伝学普及会 学会賞および奨励賞に関する規程 (抜粋)

第1条 (目的)

遺伝学の進歩を促し、すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する。

第2条 (賞の種類)

1. 日本遺伝学会木原賞
遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者 (原則として会員) に授与する。
2. 日本遺伝学会奨励賞
遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に授与する。

第3条 (賞の内容)

1. 日本遺伝学会木原賞
賞状、メダルおよび副賞としての賞金20万円からなる。
2. 日本遺伝学会奨励賞
賞状および副賞としての賞金5万円からなる。
尚、賞状の名義 (発行者) は "日本遺伝学会会長名" とする。

第4条 (賞の選考)

賞の存在が有益であるためには、公正適切な選考を行なうことが不可欠である。これを考慮して選考委員会の規定および選考方法を定めるものとする。

1. 選考委員会

選考委員は、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員を対象として評議委員会により選挙で選出された評議委員より3名、評議委員以外の会員より3名とし、これに会長を加えた7名が選考委員会を構成する。会長以外の選考委員は任期を2年とし、連続して2期 (4年) をこえ選考委員としてとどまることはできない。選考委員の委員長は会長がつとめるものとする。選考委員は財団理事会の承認を得るものとする。

2. 選考方法

会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い、受賞者を決定した上で評議委員会及び財団理事会の承認を得るものとする。日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として各年1名とするが、適当な候補者がいない場合は授賞は行なわないものとする。日本遺伝学会奨励賞については各年2名以内を選ぶものとする。

附 則

昭和57年11月20日 日本遺伝学会総会承認

昭和60年10月14日 一部改正

昭和63年2月6日 一部改正

1989年10月14日 一部改正 日本遺伝学会総会承認

1992年10月23日 一部改正

2005年4月4日 一部改正 〈選挙方法〉および〈補足〉

2009年9月17日 一部改正 日本遺伝学会総会承認

2016年5月16日 この規定は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に定める公益法人の変更認定申請に基づいて、定款の変更が成された日から施行する。

2019年9月12日 一部改正 〈選考委員会〉

2021 年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

2021年 月 日

推 薦 者	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

2021 年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

2021年 月 日

推 薦 者 (自薦の場合、職名、連絡先は不要)	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】

【遺伝学会における活動歴】

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)	

注：(1) 候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙は A4 判を使用）に掲載し、うち主要な論文 2 編 3 部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4 判）は別紙でも結構です。

(2) 自薦の場合もこの用紙を使ってください。

提出期限： 2021 年 5 月 30 日（日）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会

TEL & FAX 055-981-6736

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

城 裕 己	770-8503	徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15 徳島大学大学院 薬科学教育部 医薬品病態生化学分野
水 津 太	060-0815	札幌市北区北十五条西7丁目 北海道大学 遺伝子病制御研究所 癌生物分野
福 永 健 二	727-0023	庄原市七塚町5562 県立広島大学 生物資源科学部
曾 根 雅 紀	274-8510	船橋市三山2丁目2-1 東邦大学理学部生物分子科学科
笠 井 公 輔	631-8505	奈良市中町3327-204 近畿大学農学部大学院農学研究科バイオサイエンス専攻 分子生物研究室
宮城島 進 也	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 遺伝形質研究系
三 好 知一郎	606-8501	京都府京都市左京区吉田近衛町 京都大学 大学院 生命科学研究所
井ノ上 逸 朗	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
桜 井 進	140-0001	品川区北品川3-4-4 公益財団法人河野臨床医学研究所分子遺伝学研究室
本 田 智 子	761-0793	木田郡三木町大字池戸1750-1 香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科

(連絡先自宅のため不掲載)

山内 周

退 会

野口基子, 柳田正義, 松羅由香, 赤池康範, 濱永里菜, 薄 伊納, 井関敏啓, 細山田舜, 由良 敬, 山崎脩平, 渡辺新也, 山口喜芳, 佐藤綾子, ZHAO TINGYI, 古井佳奈, 清水優紀, 山崎 遥, 近藤正啓, 橋本佳澄, 比嘉大介, 宮下直彦, 沖住香織, 齋藤 絡, 秋山 優, 呉 耀慶, 原田一将, 石川冬木, 安田和史, 喬 鋭, 林崎良英, 成 耆鉉, 下條智史, 白井 雄

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 90	No. 12	(2020)
	Vol. 91	No. 1-4	(2021)
統計数理	Vol. 68	No. 2	(2020)
NEWS OF NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE REPUBLIC OF KAZAKHSTAN		No. 6	(2019)
		No. 1-2	(2020)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 50	No. 5-6	(2020)
	Vol. 51	No. 1	(2021)
Chinese Journal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 26	No. 5-6	(2020)

(公財) 遺伝学普及会所属日本遺伝学会運営規則

公益財団法人遺伝学普及会（以下財団という）定款第38条、及び公益財団法人遺伝学普及会所属研究団体等に関する規定に基づき、当財団に所属することが認められた日本遺伝学会の運営については以下の通りとする。

- 第1条 所属団体としての名称は日本遺伝学会（以下本会という）と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会に入会しようとするものは所定の用紙に記入して財団事務局に申し込む。
- 第4条 本会会員は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。ただし、年会費滞納が当該年度を超えて1年以上におよぶものは会員資格を停止する。
- 1) 普通会員は年会費10,000円を納める。
 - 2) シニア普通会員は、定年退職して常勤職でないことを申し出た者とする。以降の年会費6,000円を納める。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 3) シニア永年会員は、当学会に5年以上在籍する65歳以上の普通会員もしくはシニア普通会員が、初回のみ30,000円の永年会費を納入して資格変更でき、以降の会費および大会参加費の納入は免除される。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 4) 学生会員は、在学証明書またはそれに代わるものを提出することで、初年度の年会費を免除し、2年目以降は3,000円を納める。
 - 5) 教育会員は、小・中・高等学校等の教育機関の教員を対象とし、年会費2,000円を前納する。会長および評議委員の被選挙権は有しない。
 - 6) 機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を納める。
 - 7) 普通会員、シニア普通会員、学生会員および教育会員が休職および海外留学をする期間の休会を申し出たときは、その期間中の年会費を免除する。
- 第5条 本会は次の者を財団理事会の決議により名誉会員の称号、あるいは特別功労賞を授与することができる。本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第6条 本会は隔月1回 Genes & Genetic Systems を発行する。印刷体は機関会員、賛助会員、および希望する普通会員と学生会員に配布する。印刷体の送付を希望しない普通会員と学生会員は年会費を500円減額する。特に希望がある場合を除き、シニア普通会員およびシニア永年会員には印刷体を送付しない。
- 第7条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、講演会では普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員の研究発表をする。大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は財団理事会の承認を得て会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第8条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第9条 本会を運営するため運営委員として会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議委員若干名をおく。以下の手順で選出された運営委員候補者および評議委員候補者は全て財団理事会の承認を得るものとする。
- 1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
 - 2) 会長は、評議委員が普通会員および学生会員の中から選出した複数の候補者から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙によって選出される。
 - 3) 評議委員は、普通会員および学生会員の中から、普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員による直接選挙で選出される。
 - 4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議委員の過半数が承認することにより選任される。
 - 5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議委員の過半数が承認することにより選任される。
 - 6) 会長は評議委員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議委員会に出席するものとする。
 - 7) 評議委員会は会員を代表して、本会の事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議委員の過半数をもって草案を議決する。決議された事項は財団理事会の承認を得るものとする。評議委員会は全評議委員の3分の2以上の出席をもって成立とする。やむおえない事情の場合、委任状の提出あるいはオンライン参加も参加とみなすことができる。
 - 8) 会長ならびに幹事に幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
 - 9) 幹事会は、本会の関連事項を論議し評議委員会に諮ると共に、会務を執行する。
 - 10) 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第10条 運営委員および評議委員の任期は2カ年とする。会長および評議委員は連続三選はできない。
- 第11条 本会の事務年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 付則 この規定は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に定める公益法人の変更認定申請に基づいて、定款の変更が成された日から施行する。
- 付則 平成29年9月12日に第6条を改正し、平成30年4月1日から施行する。
- 付則 平成31年3月8日に第11条を改正し、平成31年4月1日から施行する。
- 付則 令和1年9月12日に第1条、第5条、第6条、第7条、第8条、第9条を改正し、令和1年9月13日から施行する。
- 付則 令和2年9月18日に第9条を改正し、令和2年9月19日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第96巻1号（付録） 2021年5月10日発行 非売品 発行者 岩崎 博史 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5 番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <p>発行所 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会 https://gsj3.org 電話・FAX 055-981-6736 振替口座 00890-1-217316 加入者名 日本遺伝学会</p> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
--	--